

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校

強き信念(まこと) と 高き理想(のぞみ) を持つ生徒が育つ高等学校

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校
2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性を涵養する学校
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

2 中期的目標

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校

- (1) 学習指導要領を踏まえた教育課程の編制と授業の充実を図る。
- (2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)としての学力向上に係る内容の充実を図る。
- (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。
 - ア 年間計画の充実と一層の進路指導の情報提供に努める。
 - イ 国公立大学志望90%という生徒の希望進路の実現を支援する。
※国公立進学率を80%以上に引き上げるとともに全体の目標進学率の向上を図る。
- (4) 英語コミュニケーション能力の育成
 - ア 英語 4 技能(聞く、話す、読む、書く)をバランスよく身につけるさせるとともに、TOEFL 仕様の授業の導入をとoshite、実践的英語力の向上を図る。
- (5) グローバル化対応・ICT化対応の教育の推進
 - ア 授業におけるICT化及びアクティブラーニングを推進する。

2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性を涵養する学校

- (1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させうる生徒を育成する。
※1年次部活動加入率90%以上の維持を図る。・・・オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。
- (2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。
- (3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。

3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

- (1) 授業における課題研究活動やボランティア体験活動など、社会貢献活動の充実と発展を図る。
- (2) 海外派遣研修や海外の高校による学校訪問(受入)等により、国際感覚のさらなる向上に努める。

4. 地域・関係諸機関との連携が充実した学校

- (1) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 「学力の充実と進路希望の実現」を重点目標として取り組んだ。 ・課題にあげていた「到達度の低い生徒に対する組織的指導」(教職員対象)の項目が肯定的評価78.2%(昨年76.4%)、「各教科で話し合いがされている」(教職員対象)の項目の肯定的評価が94.5%(昨年90.9%)であり、学習指導に関して組織的指導が定着してきている。 ・昨年度課題であった「学習意欲の高い生徒に対する組織的な指導」(教職員)の肯定的評価は90.9%(昨年87.3%)で回復した。また、「先生方は分かりやすく、興味深い授業をしている」(生徒対象)の肯定的評価が87.3%(昨年87.1%)であり、概ね昨年どおりの高評価と判断できる。</p> <p>【生徒指導等】 ・「総合的にみて、学校は生徒の学力向上、人間的成長のために尽力していると言える」(生徒対象)の肯定的評価は86.6%で3.4ポイントダウンしたが、平成24年度から課題としていた「命の尊さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(生徒対象)の肯定的評価は80.7%(昨年79.9%、24年度53.6%)であり、徐々にポイントを上げている。引き続いて様々な行事や研修の工夫、日常の指導により、豊かな人間性の涵養に努める。</p> <p>【学校運営】 ・「校長は学校運営についての考えを明らかにし、指導力を発揮している」(教職員)の肯定的意見は84.7%(8.3ポイントアップ)、「学校運営に教職員の意見が反映されている」(教職員)の肯定的意見も77.4%(8.9ポイントアップ)。トップダウンとボトムアップのバランスがよく、次年度も継続して、学校全体で学校目標に取り組む。</p>	<p>第1回(平成28年7月5日実施)</p> <p>○ 大手前高校のグローバル人材育成プログラムについて、知・徳・体・国際などバランスのとれたもので、素晴らしい。学校の取組みが整理され、目的が明確化されることにより、個々の教員が「やりがい」を感じ、教育への参画意識が高まっていくと思われる。豊かな感性をはぐくむことは、リーダー育成には不可欠なもの。人権教育・道徳教育にもこれまでどおり、力点を置いてほしい。 [人権教育、道徳教育は、校長として最も大切にしたい。また、心に悩みを抱える生徒も増えている。大手前高校では、一人ひとりが安心して学べる教育環境を保障したいと回答]</p> <p>第2回(平成28年11月22日実施)</p> <p>○ 学力保障に関して、3年間通じて、8回の模試を経年変化、過年度変化を独自に分析しており、課題発見を行っている点は評価できる。意欲の高い生徒、到達度の低い生徒、それぞれに対して、講習(発展・標準)、指名補習、TOEFL 特別レッスンなどを実施している点で評価できる。3年間を見据えて、進路意識を高めたり、学習意欲を上げる取組みが重要になる。 [2年後期からは、進路意識も高まり、学力も向上する。1年後期から2年前期にかけて、停滞する時価がある。1年8・9月に大学等と連携した取組みを新たに計画したいと回答]</p> <p>第3回(平成29年2月8日実施予定)</p> <p>○ 前回第2回の学校協議会での意見を踏まえて、新たに阪大研修(サマースクール1年)の実施を決めたことは、高く評価できる。学校教育自己診断から「生徒の一人ひとりが大切にされているか」という観点で見ると、生徒と教員に意識の乖離が見られる項目がある。生徒の実態や人権尊重の立場から指導方法に関して、教員間の連携・方針一致・団結が大切である。 [生徒の質の変容が見られ、関わりを必要とする生徒が増えている。教員間の緊密なコミュニケーションが必要であると認識。学年組織を改編する。また中学校との連携も充実させていくと回答]</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校</p>	<p>(1)学力の充実と進路希望の実現</p> <p>ア 授業などの学習指導方法の更なる工夫と改善を進める。</p> <p>イ 生徒の自学自習力の育成に努める。</p>	<p>ア・教師力の向上を図る。 企画経営会議(首席、研究開発部長、国際教育部長、情報部長)が中心となり、①～④に組織的に取り組む。 ①日常的な授業見学や研究事業の実施、授業内容・技術等検討会による教員の授業力の向上を図る ※授業アンケートの実施[7月・12月]とその分析及び課題解決 ②学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や制度の改善、補習・講習の充実に努める。 ③校内教職員研修の充実 ※経験の少ない教員に対する研修 1. 経験豊かな教員による個別研修[年間のべ15回以上] 2. 定時制教員との合同研修[年間3回] 3. 他校教員との合同研修[年間3回] ※進路指導に係る研修の開催 ④校外・海外研修への参加増進 ※教職員の65%が海外研修に参加した経験を持つ。(マレーシア・シンガポール・アメリカ・イギリス等)</p> <p>イ・SSH事業の推進とコアSSH校としての取り組みの充実を図る ①「サイエンス探究」(2年後期から3年前期・文理学科)の充実 ②全国規模の数学発表大会(マスフェスタ・8月)・中学生対象数学講座実施を含めた取り組みの充実 ③グローバルリーダーズハイスクールとしての取り組みの充実を図る。 ※各種研修、2年サマースクール(7月)、1・2年集中セミナー(12月)の実施と学生科学賞や科学オリンピック等への参加を推進する。</p>	<p>・授業アンケートによる肯定的評価 84%以上 (27年度は、2回平均 83.3%)</p> <p>・学校教育自己診断での教職員・生徒の肯定的評価 78%以上及び実施内容 (H27年度は、76.4%)</p> <p>・実施回数の達成度とアンケートによる充実度 (H27年度は、個別研修10回・合同研修3回実施、進路研修は33回実施したそれらを上回ることが目標)</p> <p>・参加割合の達成度 65%に (H27年度は63%が参加経験)</p> <p>・達成度(実施回数も含む)各種アンケートでの肯定的評価 70%以上</p>	<p>ア・授業アンケートでは、教員[教諭・常勤講師・非常勤講師]の授業指導について、全教科教員平均で、7月実施は81.3%(非常勤講師を除けば、83.3%)、12月実施は84.5%(非常勤講師を除けば、86.1%)の肯定的評価を得た。次年度も更なる向上を図りたい。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断「到達度の低い生徒に対する組織的指導」(教職員対象)の項目は肯定的評価78.2%(昨年76.4%)。各教科教員が組織的に放課後、土曜等を活用して、指名補習など個に応じた指導を行い、改善した。(○)</p> <p>・経験の少ない教員に対する研修について、経験豊かな教員の指導による個別研修はのべ10回実施、定時制との合同研修は4回、他校との合同研修は4回実施した。進路指導に係る校内研修は各種32回実施できた。次年度も継続して実施したい。(○)</p> <p>・学校行事等に係る海外研修へは、本年度は8名が参加した。過去5年間でのべ47名が研修を体験し、本年度所属教員の61%が参加。目標値に若干達しなかったが、資質向上には大きくつながった。(○)</p> <p>イ・本年度も様々な事業を展開し、いずれも大きな成果を得た(文部科学省から6段階中最高評価を受けた)①の「サイエンス探究」発表会(7月)においては、55本の研究発表があり、大きな成果をあげた。②の「マスフェスタ」(8月)では、全国62校が参加し、参加者アンケートでは肯定的評価がほぼ100%であった。次年度も継続してさらに充実させたい。中学生対象の出前授業を実施した。また12月にはマスキャンプを行い6校18名の中学生が数学講座に参加した。③京都大阪数学コンテストでは、最優秀賞と優秀賞を受賞。また学生科学賞は優秀賞(大阪府教育委員会賞)を受賞した。(◎)</p>
<p>2 豊かな人間性を涵養する学校</p>	<p>(2) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 授業、学校行事、自治会活動、部活動、国際交流事業や、関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに、生き方やあり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成する。</p>	<p>ア 規範意識の醸成 ①あいさつの励行と服装指導 ②遅刻指導の充実 全教員当番制で遅刻指導を実施 年間2000回以内目標 ③あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「命の尊さや社会のルールについて学ぶ」機会を増やす。 ④教育相談体制の充実と学校独自のスクールカウンセラーの配置の継続(年間12回)</p>	<p>・達成度・保護者、外部からの評価</p> <p>・2000回以内の達成 (27年度は2548回)</p> <p>・達成度、内容の充実、学校教育自己診断での肯定的評価が83%を超える (27年度82.7%)</p> <p>・配置の継続と回数・内容の充実度、アンケート</p>	<p>ア・学校教育自己診断「学校は子どもに生命を大切にしている心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」(保護者対象)における肯定的評価は本年も同様レベルの89.5%(27年度89.4%)を維持した。あいさつ励行・服装についても改善された。(○)</p> <p>・遅刻指導は、2411回で昨年度より減少したが、年間目標の2,000回には届かなかった。次年度は、年間2,000回以内をめざして、さらなる改善をめざしたい(△)</p> <p>・学校教育自己診断「生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(教職員対象)の肯定的評価は90.9%で昨年(90.9%)同様であったが、同項目(生徒対象)では80.7%で昨年より2.0ポイントダウン、教員と生徒に意識の差が課題である(△)</p> <p>・スクールカウンセラー配置も継続され、生徒・保護者等対象年間73件の相談があり、適切に対応した。(○)</p>
<p>3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校</p>	<p>(3) 社会貢献活動の推進</p> <p>ア 地域や社会の課題を発見し、グループで解決に向けて挑戦する人材を育成する。</p> <p>イ グローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成するとともに、幅広い教養と英語力を身につけ、問題発見・解決に向けて主体的に取り組む、使命感を持ってリーダーとしてグローバルに貢献できる人材を育成する。</p>	<p>ア 社会貢献活動の充実 ①すべての教科において課題研究活動を導入。 ②ボランティア体験活動への参加。</p> <p>イ 国際交流の推進 ①海外生徒派遣研修(マレーシア、シンガポール、アメリカ)や姉妹校(英国ペングラスハイスクール)との交流、来日高校生との交流の実施 ②「イギリス研修」(3月)[大阪大学在籍の留学生との交流等]の開催</p>	<p>・実施の有無と内容の充実度(アンケート等)</p> <p>・生徒の参加率50%と内容の充実度(アンケート等)(27年度参加率30.2%)</p> <p>・実施の有無と内容の充実度(アンケート等)</p> <p>・達成度[十分な準備・実施ができたかどうか](アンケート等)</p>	<p>ア・課題研究の授業は、国・数・英・社・理・情の各教科が担当。家庭科、保健体育科においても調査研究等、アクティブ・ラーニングが導入されている(実施率100%)、生徒の授業満足度肯定的意見が84.5%。昨年(84.3%)同様高い割合を維持している(○)</p> <p>・自治会、部活動が中心となってボランティア活動を実施。また、多数の生徒が文化祭でのNPO団体のボランティア活動に参加。確実にボランティア活動が根付きつつあるので、次年度も継続して実施していきたい。(参加団体13団体537人:参加率49.7%)(○)</p> <p>イ・海外研修はマレーシアサイエンス研修(20名)、シンガポール語学研修(60名)、アメリカリーダーシップ研修(16名)、英国交流(98名)の4つのプログラム(合計194名)の主目的を明確にして実施。 ・イギリス研修は、生徒60名とネイティブ12名が参加して研修を行った。アンケートによる生徒満足度100%</p> <p>・学校教育自己診断「国際教育の取組みは評価できる・役に立っている」の肯定的意見が保護者91.0%(昨年91.0%)、生徒77.7%(昨年76.3%)で高い評価を得ている(◎)</p>